

令和二年度構造工学研究会の実施報告

1. 実施概要

題名：「送電用鉄塔の耐風設計技術～台風 15 号による鉄塔倒壊事故などの事例を踏まえて～」

日時：2020 年 12 月 22 日(火)16:00～17:00

進行：松尾豊史（電力中央研究所）

16:00～16:05 開会挨拶 構造工学委員会委員長 勝地 弘（横浜国立大学）

16:05～16:50 構造工学研究会講演 山崎智之（東京電力 PG 工務部送電 G）

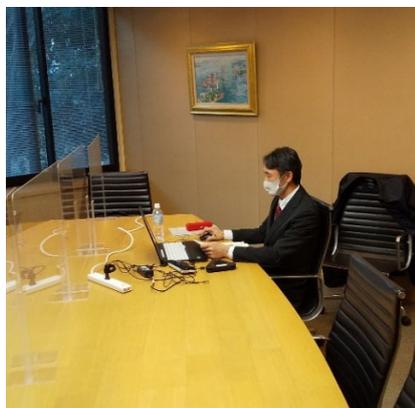
16:50～17:00 質疑応答、閉会

実施方法：オンライン（ZOOM ミーティング）

参加費：無料

2. 実施結果

- ・構造工学研究会の冒頭で、勝地構造工学委員会委員長より趣旨説明と開会の挨拶があった。
- ・講演では、2019 年台風 15 号によって鉄塔倒壊事故に関して、台風 15 号の気象状況、送電線の被害状況、ならびに気象・気流解析シミュレーションによる現地風速の推定値を用いた倒壊メカニズムの検討結果について報告された。あわせて、現行の送電用送電鉄塔の耐風設計手法の概要と JEC（送電用鉄塔設計標準）改訂に向けた取り組みについて紹介された。
- ・参考文献：山崎智之, 大園智章, 小林岳, 北嶋知樹, 橋本篤, 服部康男：2019 年台風 15 号に伴う強風による送電線の被害状況と鉄塔の耐力評価, 第 26 回風工学シンポジウム研究論文集
- ・講演後に、倒壊した鉄塔の補強の有無、一般的な鉄塔の補強方法、また、耐風設計において厳しい温度や着雪などの環境条件について質疑応答が行われた。
- ・参加申込者数は 135 名であり、オンライン上の参加者は約 102 名だった。オンラインなので講堂に参集していただくよりは参加しやすかったものと考えられる。テーマ選定も構造工学委員会に関連した内容として良かったのではないと思われる。
- ・構造工学研究会の前に開催される構造工学委員会の終了時刻が遅延した場合でも支障がないように、完全に別室（講堂の隣の役員会議室）にて講演していただいた。



講演状況